

令和2年度第4回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 令和2年10月19日（月曜日）午前10時～正午

2 開催場所 市役所12階 大会議室

3 出席者

【会長】	中部大学 工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委員】	名鉄バス株式会社	
	営業本部運行部運行課長	吉岡 実
	公益社団法人愛知県バス協会専務理事	小林 裕之
	愛知県タクシー協会春日井支部長	奥村 薫績
	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社	
	取締役	裏見 敏郎
	春日井市区長町内会長連合会理事	吉田 和敬
	春日井市民生委員児童委員協議会委員	小川 寛
	春日井商工会議所副会頭	木野瀬 吉孝
	社会福祉法人春日井市社会福祉協議会会長	黒田 龍嗣
	春日井市婦人会協議会書記	伊藤 月美
	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局	
	首席運輸企画専門官	上井 久仁彦
	愛知県交通運輸産業労働組合協議会幹事	高木 数馬
	愛知県春日井警察署交通課長	前田 健策
	愛知県都市整備局交通対策課担当課長	澤木 徹
	春日井市建設部道路課長	荻谷 健生
【参考人】	春日井市まちづくり推進部長	大島 常生
	近鉄東美タクシー株式会社	
	春日井営業所副所長	下屋敷 輝樹
	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社	
	事業部長	小池 宗則
	小牧市都市政策部都市整備課長	川島 充裕
【事務局】	春日井市まちづくり推進部次長	堀尾 朋宏
	都市政策課	
	課長	森 浩之
	課長補佐	三浦 晶史
	課長補佐	松浦 武幸
	主査	長谷川 正孝

主査	津田 哲宏
主任	米山 創
主任	安藤 里紗
技師	林 早帆

4 議題

- (1) 協議事項 1 春日井市地域公共交通計画（案）について
- (2) 協議事項 2 かすがいシティバス定額料金乗り放題の実証実験について
- (3) 協議事項 3 こまき巡回バス再編におけるルート・ダイヤについて
- (4) 報告事項 1 かすがいシティバスの見直しについて
- (5) 報告事項 2 サンマルシェ循環バスの見直しについて
- (6) 報告事項 3 かすがいシティバス各種実証実験について
- (7) 報告事項 4 高蔵寺ニュータウン各種実証実験について

5 会議資料

- (1) 資料 1 春日井市地域公共交通計画（案）
- (2) 資料 1-2 春日井市地域公共交通計画について
- (3) 資料 1-3 地域公共交通網形成計画（中間案）に対する市民意見公募の結果について
- (4) 資料 2 かすがいシティバス定額料金乗り放題の実証実験について
- (5) 資料 3 こまき巡回バス再編におけるルート・ダイヤについて
- (6) 資料 4 かすがいシティバスの見直しについて
- (7) 資料 5 サンマルシェ循環バスの見直しについて
- (8) 資料 6-1 定時定路線型バス実証実験結果（速報）
- (9) 資料 6-2 はあとふるライナーミニ ～予約型バスの乗降場所～
- (10) 資料 7-1 高蔵寺ニュータウン周辺で利用できるオンデマンド乗合サービス実証実験にご参加ください！
- (11) 資料 7-2 自動運転でおでかけ

6 議事内容

- (1) 協議事項 1 春日井市地域公共交通計画（案）について

【事務局 長谷川】

資料 1、資料 1-2、資料 1-3 について説明を行った。

【磯部会長】

協議事項のため意見交換を行った後、決議を行う。委員に意見を求めた。

【上井委員】

事務局の説明で法律改正の話があったため、少し補足を行う。地域公共交通活性化再生法が 5 月の国会で改正され、施行は恐らく 11 月下旬頃と思われる。前回の法律では名称に

「網計画」と入っていたが、今回の改正で「地域公共交通計画」に変更となった。名称の使い方については、特段制限がないため、春日井市の名称変更についても問題はない。ただ、省令改正案と照らし合わせると、例えば目標値の行政負担のあり方など、現計画が全てを網羅できているかと言えばそうではないため、今後の見直し時には、見直してほしい。

97 ページの 9 番のバスを利用した高齢者の割合が 29%から 35%となっているが、17 ページの高齢者の人数で単純計算すると、6,600 人分の利用を増やさないといけないということになる。高齢者を増やすための各施策もあるが、本当に達成できるのか疑問である。中間見直しの際はその点を踏まえてほしい。

114 ページの各施策の実施主体について、事務局には事前に意見したが、春日井市内タクシー組合と書いてある。この実施主体として「タクシー組合」の記載が適しているところと、「タクシー事業者」と記載した方が適している場合がある。再度検討してほしい。

【事務局 三浦】

指標については、中間見直しの際に参考とさせていただく。実施主体については、事前にご意見をいただいていたため、114 ページの目標 3 の 1 の①については、「タクシー組合」から「タクシー事業者」へ変更を行った。

【磯部会長】

今の 114 ページは事業者として会社別に実施していくか、組合という集まった団体として実施していくかの違いである。どこが責任を持っているかを明確にしておくことは重要である。

会議として、地域公共交通計画を承認してほしいか。

【委員】

異議なし

【磯部会長】

それでは、春日井市地域公共交通計画を承認する。

(2) 協議事項 2 かすがいシティバス定額料金乗り放題の実証実験について

【事務局 安藤】

資料 2 について説明を行った。

【磯部会長】

協議事項のため意見交換を行った後、決議を行う。委員に意見を求めた。

【木野瀬委員】

定期券所有者が特典を受けられるようなお店があると、そこを目的地として外出促進になるのではないだろうか。ついては、商工会議所や商店街連合会に呼び掛け、候補店を募集等すると、効果的な事業となるだろう。

【事務局 松浦】

以前から外出手段の整備だけでなく、外出したくなるような魅力ある外出先が必要、と

の意見はいただいていた。この実験は間もなく始まるため、商工会議所とどこまで協議できるか分からないが、来年10月に予定しているかすがいシティバス路線再編では、定期券を本格運行していきたいと考えている。ついては、商工会議所に相談をし、こういった取り組みが可能か、検討していきたい。

【磯部会長】

他のサービスも参考とし、同様の仕組みとすれば店舗側のハードルも低いだろう。工夫してアプローチを行ってほしい。期間限定で実施し、使い勝手等検証後、本格運行するか検討することになると思う。

会議として、かすがいシティバス定額料金乗り放題の実証実験を承認してよろしいか。

【委員】

異議なし

【磯部会長】

それでは、かすがいシティバス定額料金乗り放題の実証実験を承認する。

(3) 協議事項3 こまき巡回バス再編におけるルート・ダイヤについて

【小牧市都市政策部都市整備課長 川島参考人】

資料3について説明を行った。

【磯部会長】

これまでこまき巡回バスの一部の路線が春日井市内を通っていたが、春日井市内にはバス停が無く、通過していたところを春日井市と小牧市の協議の結果、バス停を設置することになった。この会議では、小牧市巡回バスの春日井市を通るルート及びバス停の設置を承認するか協議する。

春日井市側は、小牧市との交通の接続などについて考案していることはあるか。

【事務局 松浦】

今回、小牧市が設置するバス停の予定場所に牛山区・鷹来地区で実施している定時定路線型バス及び予約型バス実証実験のバス停及び乗降ポイントを設定しているため、このような乗り物が令和3年10月から運行することになれば、乗り換えが可能になる。

ただし、これは実証実験段階で定時定路線型バスになるのか、予約型バスになるのか、どこにバス停を置くのか、決まっていない。こまき巡回バスの事についても、念頭に置いて、新しい乗り物を検討していく予定である。

【磯部会長】

このバス停の設置によって、春日井市の交通も変えていく可能性があると思うので、見届けたい。

それでは、こまき巡回バス再編におけるルート・ダイヤについて承認してよろしいか。

【委員】

異議なし

【磯部会長】

こまき巡回バス再編におけるルート・ダイヤについて承認する。

(4) 報告事項1 かすがいシティバスの見直しについて

【事務局 米山】

資料4について説明を行った。

【磯部会長】

こちらは報告事項ということで、検討段階である。

委員に意見を求めた。

【上井委員】

令和3年10月の見直しに向け、住民への説明、道路管理者、公安委員会との調整などあると思うが、今後のスケジュールについて、資料としてあるとわかりやすい。

今わかる範囲でどのように進めるのか教えてもらいたい。

【事務局 松浦】

今回はルートを提示した。このルートが概ね決まると、バス停の位置も決めることができるため、道路管理者や公安委員会と物理的な問題や安全の問題など調整する必要がある。その後、バス停の前にお住いの方々の了解を得る。

また、新たな路線はいかに使ってもらおうかという点が大切であり、利用が無いバス停については見直しが必要であるため、そのような点について、周知を図っていくという作業も必要であると考えている。

次の公共交通会議は年明けを想定しており、それまでに道路管理者、公安委員会、地域への説明をする予定であるが、会議で諮るのは更にその次になるかもしれない。

【磯部会長】

長大路線を分割するというのは、いろいろなメリットがあるが、乗り継ぎが必要になるデメリットがある。乗り継ぎが必要になる利用者に何か対策があるか。

【事務局 松浦】

乗り継ぎの問題は2つの観点がある。1つは料金の問題で、1度降りて次のバスに乗ると別にお金がかかる。こちらは、協議事項2の定期券の実証実験を踏まえた導入検討を行うとともに、現状の1日乗車券でも料金の問題を回避できるので、ぜひ活用してもらいたい。

2つ目は乗り換えが必要になった場所で、いかに早く次のバスに乗車できるか又は多少の時間がかかっても待合環境が充実しているかといった課題がある。こちらは、可能な限り円滑に乗り継ぎできるようダイヤを作成する必要があると考えている。

【磯部会長】

今後も作業を進め、良いものを作ってほしい。

(5) 報告事項2 サンマルシェ循環バスの見直しについて

【裏見委員】

これまでのサンマルシェ循環バスの運行について説明した。

【高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社事業部長 小池参考人】

資料5について説明した。

【磯部会長】

このサンマルシェ循環バスを本会議で扱う理由として、1つはこの料金を協議運賃として扱っている。これは本会議で承認を得たものを国土交通省に提出し、許可を得るためである。次回の本会議で料金について協議して、提出する予定である。

また、このサンマルシェ循環バスについて高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社だけで悩むのではなく、より良いものを作るため、皆さんと一緒に課題を共有して、意見交換したい。

現在、運行している車両は何人乗れるのか。

【高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社事業部長 小池参考人】

資料1 ページに記載のとおり、車両は中型バスで運行している。

【磯部会長】

中型バスで定員 55 人、座席が 27 人となっている。また、資料で1便あたりの利用者数を示しているので、参考にしてもらいたい。

今回、170 円に値上がりしているところが重要である。これまでの料金と比べ 70%アップで上り幅は多いが、これまで 100 円という安い価格で運行してきたところも加味するとどうなのかという点もある。

【木野瀬委員】

正直なところ、これまで良く踏ん張っていたなというのが感想である。このように工夫して継続することが重要である。買い物だけではなく行政側からもフォローできることを行うなど、民間活力を活かすという視点が大事である。

タイアップの仕方を期待したい。

【磯部会長】

普段は運賃を上げるのであれば、サービスも上げてほしいと思うところであるが、このサンマルシェ循環バスを継続していくことが最大のサービスであるため、継続するための値上げという視点もある。

行政側の支援について事務局へ意見を求めた。

【事務局 松浦】

2つ視点があり、その1つとして、いかにこのバスに乗ってもらいサンマルシェへ行きたいと思わせるかという点がある。今年度にKDDIなどと一緒にMa a Sアプリの開発を進めており、これを利用しサンマルシェ循環バスでサンマルシェに行く人に、店舗の方の協力のもと、少し特典を付けることなどを含め、アプリの開発を進めている。

また、一方でかすがいシティバスが年間約30万人の利用となっているなか、自社努力で年間約15万人という非常に多数のお客を運んでいることは、賞賛に値することである

と思う。高蔵寺ニュータウンを通る路線バスの高蔵寺ニュータウン線は、資料1の48ページ「参考：名鉄バス 路線別の日利用者数の割合」に記載のとおり、市全体の45%の利用者がいる。また、資料1の47ページ「名鉄バス 路線別の日利用者数の伸び率」の記載のとおり、利用者が年々減少しているなかでも、名鉄バスが路線を維持していることから、高蔵寺ニュータウンは公共交通が充実しているエリアであると推測できる。

このようなことから現段階で、公的資金を投入することは考えていないが、資料1の107ページの上段に記載があるとおり、このような場で議論していくことが重要であると考えている。

【磯部会長】

「サンマルシェ循環バスをどのように活用していくのか」ということについて、今後も本会議で委員の皆さんとともに議論していきたい。

(6) 報告事項3 かすがいシティバス各種実証実験について

(7) 報告事項4 高蔵寺ニュータウン各種実証実験について

【事務局 米山】

資料6について説明を行った。

【事務局 安藤】

資料7-1、資料7-2について説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【上井委員】

牛山、出川・下市場は、来年10月のかすがいシティバス路線再編に関する実証実験と思われる。アンケート調査によって、利用者の声やコロナ禍において外出自粛した人の意見を聞けるような取組をしていただきたい。また、高蔵寺の実証実験については、先を見据えて取り組んでほしい。

【事務局 松浦】

牛山、出川・下市場について、シティバスの見直しのため、実証実験を進めている。奥村委員に運行を担当していただいております、利用者の声はよく聞ける状態である。また、利用されなかった方についても、地元アンケートにて声を聞けるようになっている。なお、出川・下市場は乗降者数において苦戦をしており、継続か、否か、整理していく必要がある。

高蔵寺の乗合タクシーについては、ニュータウンが他地域と比べ、公共交通が発達していることから、公的資金を投入することは考えておらず、事業採算性を重視しており、運賃も他実験とは一線を引いている。最終的にタクシー事業者が自主運行可能かについて実験を進めている。自動運転については、地域とともに何が必要か、何ができるのか、地域の役割分担は何か、といったことを協議し、導入の是非を検討している。また、技術面に

ついて、確立されていないため、もうしばらく実験が必要と考えている。

【磯部会長】

牛山、出川・下市場については、シティバス再編に間に合うよう、新しい仕組みを検討したい。ニュータウンについては、ニュータウンにふさわしい乗り物を検討している、といったことの実験と捉えられる。

上記のとおり令和2年度第4回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名及び押印する。

令和2年11月25日

会 長 磯部 友彦

署名人 吉田 和敬